「通級指導」教員の基礎定数化に待った
４万９千人の教員削減をかかける

財政審『建議』

大平喜信衆院議員（比例中国）が文科委員会で質問

データの歪曲、すり替えをきびしく批判!!

日本共産党の大平喜信衆院議員は11月25日に開かれた文部科学委員会で、財務省が教職員定数を機械的に削減する方針を掲げたことを批判。特に、今年５月には財務省も認めた「通級指導」教員の基礎定数化に待ったをかけた「財政審議会」の議論に使われたデータの誤り、歪曲、すり替えを厳しく指摘し、教員の増員・改善を求めました。

質問する大平喜信衆議院議員

開き直り、弁明に終始―財務副大臣

大平議員は、財務省が財政制度等審議会に提出したグラフに、公立小中学校と特別支援学校を一緒に算定する初歩的な誤りがあると指摘。発達障害などがある子どもたちが特別な指導を受ける「通級指導」について、「学級規模による学力向上は認められない」と教員の基礎定数化に待ったをかけていることについて「通級指導は学級でなく週１コマなどに通う教室だ」と指摘。「通級指導」は教科を学ぶ場でなく、子どもたちの生きる土台、社会的スキルを育む場だと指摘し、財務省の視点・視野の狭さを批判しました。

大塚拓財務副大臣は「学力だけでみているわけではない」と弁明。文科省は、通級教室が子どもの社会的スキル向上につながっていると答えました。

教員定数の増員を求める大平議員に、松野博一文科相は「通級指導」を受ける子どもが増加し「学校の抱える課題が複雑化・困難化している」として教員定数改善に取り組むと表明しました。

公立学校の施設整備予算の充実を

この日の質問で大平議員は、公立学校の施設整備の充実も要求。老朽化で外壁が剥がれ落ちた鳥取市の小学校の写真（伊藤幾子同市議提供）や洋式トイレへの改修の要望などを紹介し、「自治体が計画的に施設整備ができるよう、補正予算頼みではなく年度当初から十分な予算措置を」と求めました。

さらに、大平議員は岩国基地内に新設された小・中学校の建築単価が、日本の公立高校の２倍に達することを指摘し「日本の子どもたちにも早急に同様の教育環境をおこなうべきだ」と迫りました。

岩国基地内の小学校―建築単価が日本の２倍

来年度予算案で「通級指導」教員を基礎定数化

党質問と運動が実る――いっそうの改善を

安倍政権が12月22日に閣議決定した17年度予算案は、来年度から10年間で加配定数（今年度約6.4万人）の約３割を基礎定数化。来年度分として「通級指導」の教員602人、外国人の子どもを指導する教員47人を基礎定数化します。教職員定数の改善は868人増。

大平質問など党論戦と運動の成果ですが、少子化に伴う自然減など4150人減を見込み、全体として3282人減となっており、教職員の増員・改善が求められています。

動画をご覧ください➡

衆議院議員 比例・中国 大平 喜信 国会通信 2016年12月27日 №22
〒100-8981 東京都千代田区永田町２－２－１ 衆議院第１議員会館1108号 大平喜信事務所